

令和8年度富山県民芸術文化祭 第2回実行委員会 議事概要

1 日 時 令和8年7月23日（木）午前10時～午前11時

2 会 場 富山県庁本館4階大ホール

3 出席者 委員15名（欠席者 監事2名）

4 次 第

（1）委員長挨拶

（2）報告事項

①企画運営等業務委託に係るプロポーザルについて

（3）協議事項

①イベント実施内容の詳細（案）

②広報計画（案）

5 イベント実施内容の詳細（案）及び広報計画（案）に対する主な意見

委員名	発言内容
可西委員	・大ホールについては、県民芸術文化祭でないと観られない内容にこだわり、コラボに特化して調整している。出演する皆さんにも快く引き受けていただいております、楽しんでもらえる内容になると思う。 ・多目的小ホールの公募については、1組あたりの公演時間は、例えばダンスや合唱等で30分となると収拾がつかなくなる場合もあるので、募集の時点で各ジャンルの目安の表現時間を示した方がいいと思う。 ⇒委員長コメント ・大ホールについて、あまり他では見られないコラボの内容になっており、大変ありがたい。 ・多目的小ホールの公募については、新たな取り組みであり、公募が集まるかどうか、募集のかけ方をどのようにすれば適切なのかなど、不安な部分があると思うので、他の委員の意見も聞かせていただきたい。
中川委員	・多目的小ホールの公募に限らず、ワークショップでも人が集まるか不安なところがあるので、広報に力を入れていただきたい。 ・池坊高岡支部として、多目的小ホールで礼式生けをアレンジしたものをやらせていただく。普段は池坊の関係者しか見られないものなので、来場者の方々に見ていただきたいと考えている。 ・いけばなワークショップについては、佐部利委員から提案のあった、大学生が自由に作った花器を使うというアイデアを具現化できそうであり、子どもたちがどのような反応を示すのかが非常に楽しみである。 ・12月は使える花が限られる時期であることが悩ましいが、頑張って進めていきたい。
片山委員	・これまでの県民芸術文化祭では、お茶会の準備や呈茶券を売ることに精一杯で、他分野のことまで気にしていられなかった。今回は、子どもを中心に親や祖父母なども参加できる内容となっており、自分自身

	もいろいろなワークショップに参加してみたいと思えるような企画が充実している。また、テレビや新聞などでの広報も充実している。 ・県茶道連盟としても新たな試みは非常に楽しみである。 ⇒委員長コメント ・今回の県民芸術文化祭では、来場者だけではなく、主催者側も楽しく参加していただくということが重要だと考えているので、是非委員の皆さんにも楽しんで参画していただきたい。
藤井委員	・施設全体をうまく使った会場構成案となっている。 ・美術連合会としては、諸般の事情により今回は参加していないが、次回は是非協力させていただきたい。 ・県障害者芸術活動支援センターのアート展示はとても期待している。
中井委員	・これまでの県民芸術文化祭よりも、様々な方々が関わる要素が詰まっている。 ・飲食ブースについては、12月ということもあり雨や雪の心配があるが、室内にもしっかりと食べられるスペースを確保していたり、キッズスペースや臨時保育室など、子育て中の保護者が参加しやすい仕組みがあったりと、よく考えられていると感じた。
米田委員	・打合せを重ねる中で「ごちゃまぜ・表現ひろば」という言葉が出てきたが、今回の県民芸術文化祭の全体の基本的な考え方をよく表していて、これまであまり活動を発表する場がなかった人たちも十分に参加できる形になっていると感じた。 ・出演者や参加者にとってもチャレンジングな場になっており、これを機に文化芸術への見方が変わることが期待でき、素晴らしい企画内容だと思う。
佐部利委員	・もともとのコンセプトからぶれずに具体的な内容に落とし込めている。せっかく実施するので、当日だけではなく、それまでの過程も重要になると思う。一人でも事前に関わる方々が増えれば、当日の来場にも期待できると思うので、うまく取材等プロモーションをしていただきたい。 ・どのポイントをプロモーションしていくか、どことどこが関われるかを整理していけば当日盛り上がるものになると思う。 ⇒委員長コメント ・事前の段階から気運の醸成を図っていくというのは重要な部分であり、SNSアカウントでの情報発信についてはしっかりやっていきたいと考えている。 ・今回は、チューリップテレビにも関わっていただけることになったので、事前の練習風景や準備段階も取り上げていただけるとありがたい。
田原委員	・ダイバーシティやインクルーシブといわれる今の時代に合った企画だと感じた。 ・あとは、いかに来場者に来てもらえるかという部分が大事。今の高校生はキャッチする情報が非常に多いので、学校にポスターを貼っていても反応が薄い。そうした中でも今回のポスターデザインは若者の目に留まりやすいデザインになっていると感じられるし、SNSの広報

	も充実している。 ・高岡文化ホールの前は、高岡高校、高岡龍谷高校、高岡工芸高校等の生徒が多く往来する場所なので、飲食ブースが正面に配置されていることで、「文化芸術」というワードに反応しない生徒たちにも来てもらえるような設計になっている。 ・感受性豊かな高校生を是非取り込んでほしい。高文連としても協力できることがあれば言っていたきたい。
高瀬委員	・来場者が見る企画もあるが、一緒に参加できる企画もあり、いろいろな人を巻き込んで楽しむ内容になっている。是非多くの人に参加してほしいと思った。 ・富山県中学校文化祭（中文祭）を、県民芸術文化祭の2か月前に高岡文化ホールで開催するので、そこで多くの人に情報発信をしていきたい。中文連として協力できることがあれば是非言っていたきたい。
吉本委員	・他分野とのコラボや、子どもや子育て中の保護者への配慮など、裾野を広げていこうという姿勢が一貫して感じられる内容になっており、このようなイベントを高岡市で開催していただけることは大変ありがたい。 ・欲張りな課題ではあるが、ワークショップに参加してくれた子どもたちがどうしたら、次の文化芸術の担い手になってくれるかという視点も重要だと感じた。 ・広報について、高岡市でも活用できる媒体があるし、委員の皆さんもいろいろな情報発信媒体をお持ちだと思うので活用していくとよい。その際には、北日本新聞開発センター、チューリップテレビの方々には広報のプロなので、情報発信のタイミングや方法についてアドバイスをいただくとよいと思う。 ・ポスターのデザインについては、とても写真映えしそうなものになっているので、会場で来場者にたくさん写真を撮ってもらうようなものがあるとよいと感じた。
笹谷委員	・1日を通して楽しめる内容になっていて、新しい試みが多くある。 ・公募企画のステージについては、やってみないとわからない部分があるが、チャレンジングな企画になっていて富山県の文化芸術の発展につながる内容であると感じた。
水戸委員	・多種多様な内容となっているので、安全には十分配慮しながら協力していきたい。 ・公募企画については新しい試みだと思うので、どのような方々が出てこられるかが大変楽しみ。少しでも多くの方が思わず参加したくなるような仕組みを作っていければいいと思う。 ⇒委員長コメント ・多目的小ホールの公募企画について、どのように募集するかが知恵の絞りどころ。今回、北日本新聞開発センター、チューリップテレビに関わってもらうということで、それぞれノウハウをお持ちだと思うので、よろしく願いたい。

清原副委員長	・ 県民芸術文化祭が新たに生まれ変わるということで、新しい要素が多くあり非常に楽しみな内容になっている。 ・ 可西委員からも話があったが、多目的小ホールの公募企画の表現時間について、5～30分とあるが、ある程度ジャンルごとの目安があれば手が挙げやすいのではないかと感じた。 ・ 和菓子づくり体験や飲食ブースがあるので、衛生管理にも十分配慮していただきたい。
山崎副委員長	・ 盛りだくさんで、みんなが楽しめる内容になっている。 ・ 午前と午後の2部制になっているので、配慮はされていると思いつつ、和菓子づくり体験といけばなワークショップの時間が重なっているのが気になった。出演者の子どもたちもこれだけのメニューがあればやりたいと思うので、できるだけ参加できるようにしていただきたい。 ・ 佐部利委員から事前の段階からのプロモーションが大事という話があったが、芸文協の参加団体も8月以降に富山県芸術祭という形でそれぞれの催しがあるし、県民芸術文化祭の1週間前の11/29には「とやまこども舞台芸術祭」もある。その他の中文連のイベントなども含め、ホームページ等で総合的に広報していただけるとありがたい。